

中里村立志伝考

原話 柳直春

寛政十二年秋、越後之國 妻有莊貝野郷、慈願寺の境内は、折からの仲秋の名月と相俟つて部落の若者達で賑わつた。

今しも大門先の三本杉が亭々と、その巨大な梢の先端を夜空の中に融け込ませている。その根元の辺から「ワアー」という喚声が湧き上つた。と見ると、筋骨隆々たる若者が、四十貫もあるうと思われる大石を両手に高く、仁王様のように差上げたところだつた。

喚声は、それに対する驚嘆の声だつた。

その若者達の群の中に、小沢の二郎、新屋敷の精積、本屋敷の千代松と、三人の肝胆相照する者が居た。三人とも例にもれず、この盤持の競いに参加していた。とりわけ今宵は三人に取つて嬉しい夜だつた。

というのには、この盤持の一番石、八斗匁に成功したとだつた。盤持というのとは一種の競技で今日の重量挙げである。即ち、最初は二斗匁(三十キロ)、次は一斗匁(二十キロ)、最後は八斗匁とあつ

て八斗匁に成功することはこの競いでは完成を意味していたからだつた。

そんな訳で、三人は興奮と疲労の混り合つた上気した顔を寄せ合つて、盤持の群から離れた。そんな三人には十五夜の月が一層美しい、神秘的なものとして映じ切つた月を眺めやつた。

暫く無言が続いた。風が撫でるようにして三人の頬を打つた。盤持の喚声は何処か遠い所からのように聞える。

と、突然「こんだあ、なんのわざにするべか」。

小沢の二郎はこれまで競い合つて研鑽して来たものが、無くなつた張り合いのなさを口にした。それを後の二人も考へていたのか、「その事だが、おらあももに二十五才になつたが、これからは社会に出て成功しなければならんべ、人間も一生の内にはお駕籠に乗るような身分になつて見たいと思ふがどうだべ。これから誰が一番先きに成功しお駕籠に乗れるか、これを

目標にして互に研鑽しようじやないか」と本屋敷の千代松が小沢の二郎の話を引きとつた。次は新屋敷の精積が、なにか云うのかと自然千代松も二郎も黙つていたが、精積は黙つてなにも云わない。それで二郎は「お前は庄屋の息子、お駕籠に乗ることはそんなじやないのかも知らないが、おれ達は唯百姓の伴、お駕籠に乗ることは大変なことだ」と精積の気持を察したつもりで云う。「いや、おれが黙つていたのは反対だからではないんだ……ただどうやつてお駕籠の人になるかを考へていたんだ」。

「なんだ。そうか、黙つてゐるんで反対かと思つた」。二郎はそう云つて快活に笑う。二人ともそれに合せて明るく笑いとばした。そしてこんど三人の新しい盤持ち競技が開始されたのだつた。時あたかも寛政十二年秋、先にロシアの軍艦が蝦夷地に來、通商を求め、今、伊能忠敬蝦夷地の測量をなしていた時であつた。そんな時、越後の國妻有莊、貝野郷の若者三人が、盟を結んだことは意義あることといわなければならぬ。

(続く)

構成、富永ひさお



(上) 分科会討論
(下) 楽しい清津峡探勝

中里津南青年交歓会

清津峡小学校にて

去る九月三、四日の両日、中里、津南青年交歓会が町村教育委員会主催の下に約八十名が参加、清津峡小学校で行なわれた。

この日快晴に恵まれます。講演をきき分科会議では部落青年団の実情やお互の悩みなどをなごやかなうちに活発に話し合ひは月下、河原で雄大なフアイヤータき、青春を躍動、謳歌、

印象的な一夜を過ごし、第二日は、早朝ラジオ体操、分科会報告、清津峡探勝し、両町村青年の交友の実をあげ無事日程を終つた。

この交歓会を通じ感ぜられたことは、第一に中里村の青年の参加者が少なく淋しかったこと。第二は分科会討議の内容が大変現実的でしたこと、第三に幹部リーダーがよくやつたこと等、初めて得たものである。

ともあれ、この種の行事が度々催されることにより青年の健全の仲間づくりが行われ、豊かな人格成長に役立て得ることは誠に有意義なことであり、今後もこの種活動が、自主的に盛り上がりつつあることを期待する。

尚清津峡婦人会の方々は終始、炊事に絶大な御協力を得て立派に終了したことに深く感謝申し上げます。

国民年金制度への疑問に答える

村長 高橋 幸作



新 所 館
村 行 公 所
中 里 村 刷 新 社
印 町 新 開 社
日 十

国民年金制度については抱く方々があると思われま所管係をして一通りみなさん方に御説明を申しました。この制度は国が社会保障制度の一環として実施するもので、老人や身体障害者、母子家庭に対し財政的負担をしようというものであります。

これがいよ／＼実施の段階に当つて村がその事務を管掌することになつてゐるのであります。

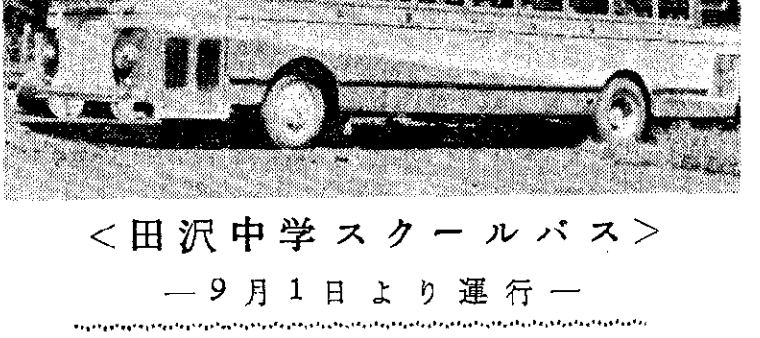
これは十月一日に加入届出、来年四月一日から実施するものであり、村といはしましてもこの間、あらゆる方法において事務の円滑な進行に努めて来ております。

しかしながら村内にはこの制度に対し多少の疑問を

抱く方々があると思われますので、お答え申上げ、真の意義を御理解頂きたいと思ひます。

第一に国民年金の掛金が本人が死んだら遺族が貰えるようにならないかという要望が当然あります。しかし国民年金は死亡した場合に、その掛金が他の人にまわることで納得しなくてはなりません。これは社会共同連帯を理念とする他の制度一般に通ずる事です。

たゞこれでは仲々割切れませんので、母子年金、遺児年金、寡婦年金のような制度もありますし、また一定の金額をつけた附加保険料を納めておく死亡した場合脱退手当金として従来納



<田沢中学スクールバス>
— 9月1日より運行 —

めた保険料に見合う額が遺族に支払われます。

第二の疑問は積立金の運用の問題です。年々増加していく積立金は将来、莫大な金額になることが予想されますので、当然有効に運用することが、考えられております。

現在では年五分五厘の利率で貸付けることになっておりますが、この貸付方法については真剣な検討がなされております。この国民

の客細な保険料を特定の一部の人のみが利用したり、又は国の発展を阻害するようないふ事には使はれることのないよう法律にも規定し又この法が成立する際の国会の附帯決議にも「積立金の運用については被保険者の利益のため運用する方途を講じ、被保険者にその利益が還元されるよう配慮すること」と決められております。ですからこの金は水道、老人ホーム、病院等の公

共団体の施設、又は社会福祉施設に使われることにならざるを得ません。第三に国がどれだけの費用をこれに負担しているかという問題です。国民年金を運営するためには、国、県、市町村の職員をはじめ多くの事務費が必要であり、国、県、市町村の分は全額が国費によつてまかなわれております。

更に国は被保険者から納付して頂く保険料の半額を負担し、これらを積立てることになつており、例をとりますと、その年間の保険料納付総額が、三百億であれば、その半分の百五十億を国が負担し計四百五十億が積立金として毎年積立てられることとなります。年々積立てられた金はいか程多額になつても他の事務費や福祉年金には使えないこととなりますから、すべて拠出制年金給付費にあてられます。つまり将来、当然考へられる筈である年金額の増額とか受給年金の引下げとか死亡一時金とかに使われるわけであり、以上、一般に国民年金について疑問とされてゐることには応えたわけであり、国民の生活を国家が保障してゆこうという制度的方

針が明確に打ち出されてきたものとして、たゞそれが不十分なものであるにせよ、現代日本社会にとつて活氣的意義を持つものであり、住民としてこれを歓迎しなればならぬものと考へます。「大衆から、零細な財力をしほりあげて支給前に死亡した人については、掛捨てになるのではなからぬか」という問題が、掛捨てが一つはげしいのは、火災保険で、その期間、事故がなければ保険料は掛捨てになります。

しかしこれは加入が個人の自由意思によるものから、国民年金のように一定の条件にはまらざる人はいかならなければならぬ場合とは全然比較になりません。

そこで生命保険のように大資本に融資したり、軍備を増強する為につかわれる「のだ」といふが如き論議は国民年金に関する限り全然当を得ないものであることは明らかであります。

ともあれ、十月一日を期し届出を開始するものであり、村として住民がこれに全面的に御協力下さる事を期待するものであります。

太陽風呂のすゝめ

板橋 亀治

「あゝ長生きをして良かった。お天とう様から沸かして貰った風呂に入られたんが……」

これは、太陽熱温水器を取りつけた日の初湯から上った老父(八十六才)の感慨深い独り言である。

名前だけ聞くと如何にもこみ入った機械かと思いが、実物は長方形のビニール製袋でしかないからびっくりする。

従つて取りつけは極めて簡単で、別に大工の手も借りず、先祖代々伝わつたこぼり打ち板で最近の邪魔者扱えを受けていたものを巾を少しつめ長さを足したものに脚をつけ、日照のよい屋根上に置いただけである。ただ水道管とビニール管の接着点工事だけポンプ屋に依頼しただけである。

従来の亜丹製では、経費も一前以上かゝり其の上春秋の取りつけ、取り外しには重さや容積の関係で、折りたたみのきくビニール製袋とは比較にならないほど尚能率を高める為、保温カバーも出来ているが、

之は温床の外して代用した方が安上りである。温水器が強風に吹き飛ばされぬ為、台の周囲に三寸巾の板をうちつけ、カバーはその板を包む様にして細巾板で囲むと丈夫になる。簡易水道や自家水道があれば、工事は少い経費ですむが、吸い上げポンプの家では、之を押し上げ式に取りかえねばならないからそれだけ余計に経費がかゝります。六、七、八、九月は焚火は殆んどいらぬ位、平温三十度迄になつていれば後は落葉でも間にあうから春夏秋冬約八千円の薪代が浮ぶ事になるので施設費三千元とみて、かなりの節約になる。年中多忙を極める農家等では薪代、其のもの以上についていて火を焚くのが厄介なのだから大いに考へる必要が有ります。

最後に問題になるのは比温水器の寿命がどの位あるかは現在の私には不明であるが、業者も何もいつていないが保存の仕方如何に因係が深いと思われまふ。流行品に早く飛びつくの

で家内から、かなり手酷しい悪評をいたゞいて居るけれど扱て使用後の感想では首尾は上々である。午後七時前に風呂桶に移しビニールの蓋をして手早く次々と薪一本焚かずに入浴出来るのだからまだ試用されない方に大いにおすゝめする事ができます。

基本選挙人名簿の調製

選挙の基本となる「基本選挙人名簿」は、九月十五日現在で、市町村の選挙管理委員が調整する。この調整は、十月三十一日までに行なわれなければならない。これに登録されるのは九月十五日現在で引続き三月以上同一市町村に住所をもつ日本国民で、欠格条件に該当しないものであり、年令の要件としては、本年十二月二十日に満二十才以上のもの(昭和十五年十二月二十一日までに生まれたもの)である。

こうして十月三十一日までに基本選挙人名簿が調整されると、登録もれや誤載がないかどうかを確認するため、十一月五日から十九日までの十五日間、市役所や町村役場等一定の場所で行なわれる。選挙

赤痢防止について

今年に入り中里村では、赤痢八、疫痢二という消化器系伝染病が発生したが、このうち五名がお盆中にでたものである。

赤痢の伝染経路は保菌者の菌が口から入ることによつて発生するもので、菌を媒介するもの多くは糞です。食物や食物に糞がとまつたりすることは、この意味で恐ろしいことです。

また、食事の時、手を洗わなかつたり、食物を手づかみで食べたりすると、手に菌がついていた場合、伝染するのです。

ですから、伝染を予防する事は、手をいつもきれいに洗つておくことが大切だと同時に、私共が「カとハエ撲滅」に努力している所です。

◇赤痢の症状

(1)発熱して三十八度から四十度の高熱となる、

(2)腹痛とともに嘔吐や下痢が数回も起る。

(3)便は粘液や血うみがまじる。

※注 赤痢菌が幼児について脳症を起すと疫痢になる。

去る八月二十七日ラジオ農業学校では研修生約六十名が耕土機、トラクターを

つらねて参加県立津南開拓実験農場、桑原農場から各種の研究成果を説明していただいたり実験田場を視察したたり開拓地だけでなく山間に於ける農場全般に亘つてこの農場から学ぶ点は少なくなかつた。大谷内ダムでは津南高原の大自然の美しさと偉大な科学の力に感嘆しながら、さわやかな初秋の午後を水泳や、ソフトボールなどレクリエーションに興じ楽しい現地研修の一日を過ごした。

(写真は熱心な研修風景の一こま)



力をお願い致します。

◎調査に従事する者は法律により申告者の秘密を保護すべきことを命じております。すなわち調査票は統計表を作ること以外に用いてはならないことになつております。事務取扱上も厳重に監督されておりますので、安心して事実、ありのままを申告して下さい。

(統計係)

※※今月の農作業※※

刈取りの早いおそい量は影響するばかりでなく米貨にも大きくひびく。早刈りにすぎると、シイナ青米が多く、取量も品質も劣るが、刈り遅れても胸割れ米が多くなり、ひいては米が多くなる。また茶米も多くなるので、品質が非常に悪くなる。いち／＼条件によりちがうが、早生で出穂後四十日内外、中生で四十五―五十日、晩生では五十一―六十日で穂軸が先端から三分の一位黄変すれば適期で茎葉が黄変しなくとも刈取つてもよい。

◎乾燥

経営面積の多い農家など今年には是非一部、棒杭乾燥を採用しよう。資材、労力面で大変動か。一〇―一五米当、三米位の棒、二五本内外でよい。モミの乾燥は普通ハザと交りなく、乾燥機に入れることにより、立派な乾燥米が出来る。ワラは少し乾かないが、ワラ工品以外はさしつかえない。

◎通風乾燥機を上手に使いましょう。

折角入れた通風乾燥機も使い方によつては随分効力

じゃがいも出し

開拓組合共販部

中魚沼郡内五地区の開拓組合共販部では、今年はいじめの馬鈴薯共同出荷を行つた。

これは県経済連の斡旋で農協を通じ約一万八千キロ(一キロ当り価格五円)を



し、乾燥している空気を送り込むこと。なるべく南側の暖かい所から空気を入れ箱から出た空気は室外に出すようにする。

(1)乾燥能力のある空気を出

(2)必要だけ送風機を回数を適当にする。

(3)必要だけ送風機を回数を適当にする。

(4)通風する／＼箱のス、間から風がもれないか、適当な風が通つているかどうかは半紙大の新聞紙を

ご存じでしょうか?

十一月一日 国勢調査実施

国勢調査は統計法に基き国が行う人口調査であります。

◎国勢調査は村内四十六名の調査員により九月二十四日―十月三日の間に準備調査、実態調査の二段階に分けて村全域にわたる幼児から老人まで常住人口はごとごとく調査の対象となります。

◎常住とは各世帯にふだん住んでいる人のことです。しかし長期間出稼ぎや旅行に出ている人などについて判断にこまるような場合もあると思われるので「ふだん」という意味を「三ヵ月以上」ときめ

(1)すでに三ヵ月以上住んでいる人

(2)まだ三ヵ月にならないが十月一日の前後を通算して三ヵ月以上住むことになつて居る人

(3)一時不在でも不在期間が三ヵ月にわたらない

清津映小ミルク給食

清津映小学校ではこのたび全校児童に対しミルク給食を実施することになつた。これは校長が赴任して先づ驚いたことは、こどもの体重があまりにも低いことだ。これでは如何に学校が努力をしても成果を挙げることができない」と話したところ地域の婦人会では、そうであれば私達は全面的に御協力申上げるといふことになり、これがミルク給食となり必要な設備を寄附するばかりでなく交代での労力奉仕もするという事で、実現の運びとなつたもの。